

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 2 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

11 月中下旬播きの生育は草丈が短く、茎数が少なく、現在 5 葉期前後で平年より 7 日程度遅れています。茎立ち期は平年より遅く、3 月 1～2 半旬と予想しています。1 2 月播きは 4 葉期前後で平年より 7 日程度遅れています。現在、麦踏みや土入れ、追肥作業が行われており、雑草の発生量はやや多くなっています。排水溝さらえや排水口の整備を徹底しましょう。茎立ち期前までに踏圧・土入れを実施して、生育を確保しましょう。2 回目の追肥は食料用大麦と裸麦で 2 月下旬～3 月上旬に施用しましょう。今後はタデ類やカラスノエンドウなどの広葉雑草の発生が予想されるため、早めに対策を実施しましょう。

◇冬春ナス◇

1 月の成りこみ後の曇天続きで草勢が回復していません。果実の肥大も悪く、首細や曲り果等の発生も見られています。菌核病、灰色かび病、すすかび病が発生し、コナジラミ類も一部で発生しています。3 月以降は温度上昇に伴い生育、収量が増加するため、2 月までに摘葉や芽の整理を行いましょ。換気、湿度管理、発病葉の持ち出し等の病害対策を行いましょ。

◇施設キュウリ◇

促成作型では、曇天続きで草勢がやや弱く、尻太果や曲り果が発生しています。3 月下旬より天敵を導入予定です。半促成作型は 2 月上旬を中心に、概ね順調に定植が進んでいます。日照不足のため、強摘果等により初期の草勢確保に努めましょ。ハウス内温度の確保、こまめなかん水等により草勢維持・回復に努めましょ。3 月から天敵導入予定のほ場は放飼前の準備を行いましょ。温湿度管理によりべと病、菌核病等病害対策を行いましょ。

◇ナシ◇

ハウス栽培は 2 月 2 半旬以降に被覆を開始しています。トンネル栽培は 2 月 5 半旬頃から被覆開始の見込みです。露地ではせん定が終盤を迎えており、花芽の着生は概ね良好です。「豊水」の一部で芽枯れが発生しており、低温が原因と考えられます。ハウス栽培では、発芽期までは 10℃前後とやや高めの温度管理とし、発芽後は 7℃前後に下げて花器の充実を図りましょ。開花期には 15℃にし、受粉に好適な温度を確保しましょ。晴天時は 30℃以上にならないように注意しましょ。

◇トルコギキョウ◇

1月の出荷量は年内出荷作型が遅れたため、前年に比べて増加しています。春（3～4月）出し栽培の生育は低温で遅れていますが、概ね順調です。2次から3次小花の発蕾時期で出荷開始は昨年より遅い見込みです。一部で灰色かび病が発生しています。品質向上、出荷期の省力化のためほ場での芽摘みを徹底しましょう。開花期は花の小輪化を防ぐため夜温を12℃以上で管理しましょう。灰色かび病の対策としては、換気や湿度管理等を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

1月の肉牛枝肉単価は、高値疲れや輸入増加の影響で昨年末より1割近く値を下げ、和牛去勢（A4）前年比95%、過去5年平均比112%、省令価格で前年比89%、過去5年平均比100%と下げ幅が大きくなりました。厳寒期になりますので子牛の防寒対策を徹底しましょう。また、舎内消毒等農場の衛生管理を徹底しましょう。